

消防出初め式で今年も町内無災誓う

1月5日、大雪消防組合東川消防団（金盛勇松団長）の消防出初め式が行われました。稲やかなこの日、5分団86人全員が勢ぞろいしました。第1分団庁舎前で松岡市郎町長から年頭の観閲を受け、1年のスタートを切りました。この後庁舎前の道道旭川旭岳温泉線約500メートルを分列行進して頼もしい勇姿を町民に披露しました。



消防協会会長表彰
大雪消防組合管理者
表彰
動統20年 秋葉政幸
（第1分団部長）
かに北海道消防協会会長
表彰、鬼塚悟（第2分団同）
（東川消防団連合後援
会長表彰）

（東川町長表彰）
動統25年 向政博（第1分団長）
同20年 園田稔（第4分団部長）
かに大雪消防組合管理者、北海道知事、北海道消防協会会長表彰、守屋勝蔵（第3分団部長）
同15年 山中伸幸（第2分団部長）
千葉光志（第3分団部長）
同10年 小野昌紀（同）
かに北海道知事、北海道消防協会会長表彰、麻下智基（同）
同、牧清隆（第4分団同）
同、児玉晃一（第5分団同）
かに北海道

道一の駅・道庁館で災害用の飲料水自販機が目見え
1月19日、道の駅・ひがしかわ道草館に緊急災害時用自販機が一目見えしました。自販機の表側にLEDの文字表示装置がついており、平時は道路情報やイベント情報などお知らせ情報を表示。万一の災害時には自販機内の清涼飲料水を無料で取り出し可能になっています。
北海道コカ・コーラボトリング株式会社

1月10日、農村環境改善センターで成人式が開かれまし。町内の農園で研修している中国人研修生5人も一緒に新成人の仲間入り。全員平成生まれとなった40人が出席して新たな門出を祝いました。町内で今年20歳を迎えるのは昨年より27人少ない92人（うち北工学園の専門学生35人）。新成人の数は年々減少しています。松岡市郎町長は「3つの『ワ』を大切にしてほしい。1つ目は話し合いの話であり、対話、会話の『話』。2つ目は平和、調和、融和の『和』。3つ目は人の輪、友情の輪、同期の輪の

1月19日、道の駅・ひがしかわ道草館に緊急災害時用自販機が一目見えしました。自販機の表側にLEDの文字表示装置がついており、平時は道路情報やイベント情報などお知らせ情報を表示。万一の災害時には自販機内の清涼飲料水を無料で取り出し可能になっています。
北海道コカ・コーラボトリング株式会社

（札幌、角野中原社長）、旭川開発建設部（本田幸一郎部長）の協力で設置実現しました。
コカ・コーラ北海道社がネットワークシステムの運営、保守管理を担当し、緊急時の販売用清涼飲料水を無料提供します。LED文字表示板には「お知らせ道ねつ」とし



て町が道路情報などを随時皆さんに提供します。旭川開発建設部は随時道路情報を町に提供してくれることになっています。同型機は昨年10月下旬から役場1階ロビー町民室でも稼動しています。

成人式で晴れ姿、40人夢いっぱい

1月10日、農村環境改善センターで成人式が開かれまし。町内の農園で研修している中国人研修生5人も一緒に新成人の仲間入り。全員平成生まれとなった40人が出席して新たな門出を祝いました。町内で今年20歳を迎えるのは昨年より27人少ない92人（うち北工学園の専門学生35人）。新成人の数は年々減少しています。松岡市郎町長は「3つの『ワ』を大切にしてほしい。1つ目は話し合いの話であり、対話、会話の『話』。2つ目は平和、調和、融和の『和』。3つ目は人の輪、友情の輪、同期の輪の



「輪」。多くの人からありがとう、といわれる仕事をしてほしい。日本、世界で活躍する人になってほしい」と激励しました。出席者はその後、それぞれ壇上で自分の夢を披露しました。
「将来はネイリストになって自分の店を持ちたい。30年後には絵本作家になりたい」「東川の農業を支える大きな農家になりたい」などという夢に混じって「自分より気の弱そうな人を見つけて早く結婚したい」「将来は宇宙飛行士になりたい」などという意見も飛び出していました。

韓国MBC放送記者が朝鮮人労働問題で取材に来町

1月13日、韓国MBC（韓国文化放送）のイ・シヨン・ヘオン・プロデューサー、キム・キョン・ホカメラムン、「強制連行・強制労働犠牲者を考える北海道フォーラム」チャイ・ホン・チョル共同代表の3人が朝鮮人労働の実態を取材するため来町し、松岡市郎町長にインタビューしました。ニュースのその後を追跡するという番組「フー、あと」（1月28日に韓国内で放送）の取材です。



戦後町内で朝鮮人労働者が働いていた当時現場監督の一人だったという町内のお年寄り（87）から「当時は朝鮮人の労働者が飯場2カ所に100人ほどいた」などと当時の様子を聞き取りました。同問題について松岡町長は「まもなく開拓120年を迎えるので、その時に町を振り返る歴史の記録をつくるつもり。町内では当時2カ所の水温上昇施設を造ったが、そのうち1カ所に朝鮮の方がかわっていた」と思われるので、その事実が明らかになれば、事実を明記したい。分からない歴史の事実を明らかにすること意義がある」などと答えました。一行の取材はその後、東京、広島市内、中国・天津市内にも及んだということでした。

美しい風景づくり賞の6人1団体



受賞者の方々を一人ひとり表彰（住宅部門で受賞した小林さん＝奥さんの智賀子さん（右））

昨年12月28日、役場大会議室で第8回美しい風景づくり賞の表彰式を行いました。6人1団体を表彰しました。

町景観条例に基づいて表彰しています。松岡市郎町長は「写真写りのいいまちづくり、美しい心のまちづくり、外から訪れる人々にとって楽しく、美しい風景のまちづくりがますます広がっていくことを期待します」と受賞者をたたえました。選考委員会の藤田裕三会長は「生活している人々の息づかいが感じられる町が良い町。これからもいいまちづくりを発信してください」と激励しました。以下受賞者（団体）は次の通り（敬称略）。
▼住宅部門 小林敏樹（ガーデンング）、伊東カズエ（同）、船城澄子（同）、清水英男（イルミネーション）、森定夫（同）
▼事業所部門 平田こうじ店
▼団体部門 新築北農事組合

韓国の日本語研修生がキアウンスキー場でスキーに挑戦

日本語の語学研修に訪れている韓国からの短期研修生一行が、キトウシ森林公園キャンモアスキー場で初めてのスキーに挑戦しました。短期日本語研修講座は北海道環境福祉専門学校を会場にして昨夏から始まりました。1月5日から同月30日まで

約1カ月間の冬講座に来町したのは16歳から19歳まで26人。日本語学習の合間を縫って、7日間キャンモアスキー場でスキーに挑戦しました。用具のつけ方、スロープの上り方、安全な転び方など、初歩から学びました。最初はおっかなびっくり。「ワー

ツ」「キヤーツ」と止まるたびに転んだり悲鳴の連続。滑って止まる基本を覚えると、すぐに器用にゲレンデを自在に滑るコツをつかみ、最終日には富良野スキー場の本格コースにも挑戦しました。生徒らは期間中、旭川市の旭山動物園見物、氷まつり会場での雪像作りにも挑戦し、冬を満喫しました。

